

6月24日(水) 夏至

6月22日に夏至をむかえました。夏至とは、一年間でもっとも高く太陽が昇り、もっとも昼の時間が長くなる日です。そして、少しずつ、昼の時間が短くなっていくのです。

校長先生は、小さい頃、昼の長さが毎日違うことが、不思議でたまりませんでした。どうして、太陽は、時計どおりに動かないんだろうと思っていました。朝の6時に昇って、夕方の6時に沈んでいけば、いいのに。時間を守れないのかな。何か、時計どおりに動けない理由があるのかな、そんなことを考えていました。

昼がものすごく長い国があったり、夜がものすごく長い国があることも、知って、また不思議になりました。一年中暑い国や、一年中寒い国があるのも、不思議でした。雨ばかり降っている国、ぜんぜん雨が降らない国、その理由もよく分かりませんでした。

太陽のまわりを地球が回っていること。地球が丸いこと。地球も自分自身で回っていること。それが関係していることが分かったのは、いつだったか覚えていませんが、「不思議」をもって、よかったと思っています。

村越 新